

研究指導の概要

■ 看護科学学位プログラム

【課程：博士後期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	看護科学の基盤と原理（春AB） ：看護科学研究における概念・理論、基盤となる哲学的背景、アカデミック・ライティング（研究計画書および学位論文の執筆、剽窃予防等）、看護科学者のリーダーシップについて、発表や討議を通して学生に理解させ、看護科学の発展課題について科学的に探究させる。
		B	看護科学特論（春C） ：今後の看護科学の発展に向け、独創的で創造的な研究課題に取り組むために必要な知識と研究技法の実践について、看護科学のさまざまな専門分野の視点から教授する。
		C	看護研究方法論（通年） ：春Cモジュールでは講義と討議により、看護科学研究における代表的な研究方法について理解させ、秋学期では学生各自が自らの博士論文の研究で扱う予定の研究方法について模擬講義を行うことで、自身の研究課題に即した研究方法の応用について実践的な理解を促す。
	秋	A	看護科学演習Ⅰ（通年） ：指導教員等はゼミや個別指導を通して学生の研究計画立案の進捗を適宜確認し、必要に応じて指導助言を行う。春学期と秋学期に各2回、研究室を超えた合同発表会を開催し、学生各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案した内容を発表させ、研究室内外の学生や教員との討議を通して研究計画書の作成技術を修得させる。
		B	
		C	研究倫理学演習（秋） ：看護学研究者として必要な研究倫理に関する基礎的な知識、研究を推進するための研究の倫理的な配慮について、e-learning教材(e-APRIN)と討議により具体的な事例を通して学び、実践力を習得させる。
2 年 次	春	A	研究計画書審査（4月, 8月, 12月） ：所定の日時に学生が自身の研究計画を個別に口頭で発表し、研究室外から選出された主査1名、副査1名が審査を行う。学生が自身の研究について審査を受けたのち、研究室の指導教員等は、学生が審査委員からの指摘に適切に回答して計画書を修正し、合格に足る計画書を作成できるように指導を行う。審査結果が再審査の場合は、研究計画書を修正して再度審査を受ける。
		B	
		C	研究計画の倫理承認（適宜） ：人を対象にした看護研究を行う場合には、研究を実施する前に、研究計画について学内の研究倫理委員会による審査を必ず受け、承認が得られてから研究を実施する。
	秋	A	研究の実施 ：学生は研究計画に基づいて研究を実施する。
		B	看護科学演習Ⅱ（通年） ：指導教員等はゼミや個別指導を通して学生の研究の進捗を適宜確認し、必要に応じて指導助言を行う。また、春学期と秋学期に各1回、研究室を超えた合同発表会を開催し、学生に自らの研究の進捗状況を発表させ、研究室内外の学生や教員との討議を通して、学生が自らの研究上の課題や改善点を明確にし、研究内容を洗練することができるよう建設的な示唆を与える。
		C	

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
3 年 次	春	A	研究の実施と指導 ：学生は研究計画に基づいて研究を実施し、指導教員等はゼミや個別指導を通して学生の研究の進捗を適宜確認し、必要に応じて指導助言を行う。 学位論文の審査及び最終試験 ：学生が自身の研究について審査を受けたのち、研究室の指導教員等は学生が審査委員からの指摘に適切に回答して論文を修正し、合格に足る博士論文を作成できるように指導を行う。
		B	
		C	
	秋	A	
		B	
		C	